

第186回国際高官セミナー終了報告
「国際的なテロ関連犯罪 への対処～関与若年者の処遇」

1 日程及び参加者

- 令和7年1月17日（金）から同年2月13日（木）まで
- 海外参加者14名（12か国）
- 国内参加者4名

2 セミナーの概要

本セミナーは、若年者の関与するテロリズムに関する諸問題、特にテロ事案への関与若年者から信用できる供述を確保する手法及びテロ事案への関与若年者の更生のための効果的な処遇に焦点を当てて実施しました。本セミナーを通して、若年者からの聴取に特有の問題点を明らかにするとともに、これを解消する実務的な手法を提供することができました。また、本セミナーでは、テロ組織からの離脱を含めたテロに関与した若年者の更生に向けた効果的な処遇に関する好事例を共有することもできました。さらに、参加者による発表、国内外の講師による講義、グループ討議を通じて、参加者同士の相互の信頼と理解が醸成され、若年者の関与するテロリズムの撲滅に従事する刑事実務家ネットワークが構築されました。

3 セミナーの内容

(1) 講義

次の専門家による講義等を行い、参加者らとの質疑応答を行いました。

【海外の専門家による講義】

1. 「暴力過激主義及びテロリズムの防止：児童と若年者」
UNODC東南アジア大洋州地域事務所（タイ・バンコク）所長
マスード・カリミプール氏
2. 「将来の安全に向けて：拘束中の外国人テロ戦闘員への対応」
ドイツ・ブレーメン州司法及び憲法省部長
トーベン・アダムズ氏
3. 「テロ関連事犯被疑少年に関する司法手続」
国際司法・法の支配研究所（IJ）学術班研究員
チェイボウ・サムナ・ソウマナ氏

【国内の専門家による講義】

1. 「暴力団離脱支援に係る取組について」
東京矯正管区成人矯正第二課長
八木 岳陽氏

2. 「若年受刑者に対する処遇・効果検証について」

矯正研修所効果検証センター効果検証官

大伴 真理恵氏

3. 「司法面接－NICHD プロトコル－」

金沢大学人間社会研究域人文学系 講師

上宮 愛氏

(2) 個人発表

各研修参加者が、自国の現状や課題を発表しました。各発表に対して、他の研修参加者から多くの質問が出され、活発な質疑応答がなされました。

(3) 施設見学

以下の施設を見学し、テロリズムに関与した若年者の更生に向けた効果的な処遇等について学びました。

- ・川越少年刑務所
- ・市原青年矯正センター
- ・ウィズ広島
- ・広島少年院
- ・貴船原少女苑
- ・広島刑務所

(4) グループ討議、発表

参加者を3グループに分け、個別発表、講義及び施設見学を通じて得た知見をもとに、割り当てられた課題について討議した上で、今後のあり得る対策を具体的なアクションプランにまとめました。そして、そのアクションプランを全参加者や当研修所職員の前で発表し、質疑応答を行いました。

・グループ A 及び B: 「若年者の関与するテロリズムに対する刑事司法による対応の強化」

・グループ C: 「テロリズムに関与した若年者の更生に向けた効果的な処遇」

(5) 研修参加者からのフィードバック等

全体として、ほとんどの参加者が、本セミナーを通じて若年者の関与するテロリズム対策のための好事例について包括的に理解することができ、本セミナーは意義深かったと評価しました。特に、若年者からの聴取手法及びプロトコルを学べたことについて多くの参加者から高く評価されました。また、日本の矯正施設における若年者処遇の実例を目の当たりにすることができたことについても満足の声が多く聞かれました。さらに、各国の刑事実務家である参加者間のネットワークを構築するのにも本セミナーは役立ったとの評価を受けました。施設見学については、警察署、検察庁及び裁判所も含めてはどうかとの将来のセミナーを改善する観点からの建設的な意見もありました。アジ研は、参加者からの全ての意見に感謝を申し上げるとともに、これらの意見を将来

のセミナーに反映するよう努力します。

(6) 担当教官の所感

若年者の関与するテロリズムの撲滅は各国喫緊の課題です。参加者は、本セミナーの国内外講師による講義や参加者相互の国の実情への理解を深めることを通じて、この重大な困難に立ち向かうための有益な情報及び知識を得る十分な機会を得ました。アジ研は、ここで培った知識が、参加者の母国の司法システムを強化するのに活用されることを期待しています。特に、暗示にかかりやすいという若年者特有の性質や、若年者から信用できる供述を確保するためのオープンエンドな質問の重要性についての理解が深まったことと思います。また、テロリズムに関与した若年者のテロ組織からの離脱の重要性についても強調しておきたいと思います。テロ組織からの完全な離脱は、関与若年者の更生及び社会内への再統合にあたって極めて重要です。これがうまくいかなければ、若年者はもといたテロ組織に戻ってしまうからです。この点に関しては、参加者は、日本の矯正・保護制度での若年者処遇の取組の好事例（特に矯正施設内における暴力団組織離脱指導や保護司の活動など）を通じて、多くのことを学んだことと思います。さらに、参加者は、この分野に関する様々な国連の活動についても触れる機会がありましたので、ぜひ今後もこれら国連の諸活動に関する研究を通じて知見を蓄えてもらえればと思います。これらに加え、テロリズムの国際化を踏まえると、この問題の解決のためには国際協力の促進が不可欠です。その意味で、今回異なる地域から経験のある刑事司法の実務家が一堂に会したことについても意義深かったと考えます。事実、参加者は、テロ関連犯罪が将来発生した際に国際協力や国際協調が必要になったときに機能する実務的な連絡網としてグローバルネットワークを構築することができました。若年者から信頼できる供述を獲得する手法を共有し活用していくことや若年者の立ち直りに向けた効果的な処遇の促進は、我が国の刑事司法及び刑事政策との関連でもより一層強化していかなければならない重要分野であり、これが改めて確認できたセミナーでもありました。

最後に、アジ研は、テロリズムに関与した若年者の立ち直りを支える回復力のある社会の構築に向けて、世界中が一丸となって取り組んでいくことを心から祈っております。